

【一般演題2】 第10席

『銅人兪穴鍼灸図経』の刺入深度

東京 暉峻 年思子

宋代の代表的鍼灸書である『銅人兪穴鍼灸図経』は唐代までの穴に関する種々の経験ならびに文献を受け継ぎ、これを整理することによって新しい時代の経穴学を打ち立てた画期的な書である。本書の成果はその後『聖濟総録』『十四経發揮』を経て明代の鍼灸書に受け継がれている。したがって本書は現在の経穴学の基礎を築いた重要資料といわねばならない。本書の鍼灸法について研究することは、現在につながる鍼灸施術の枠組を検討することにもつながっている。

先に演者は『甲乙経』巻之三を資料として、鍼の刺入深度についての考察を行い、一定の成果を得た。この度の研究では同じ方法を用いて『銅人兪穴鍼灸図経』の刺入深度について調査するとともに、『甲乙経』に代表される古代鍼灸における刺鍼法と、宋代における刺鍼法の相違点をさぐるものとするものである。